



ごあいさつ

横浜市南部ミニバスケットボール連盟
横浜マリノールカップ実行委員会
会長 藤原 敬一

ようこそ横浜にお出でくださいました。

関係の皆様のご多大なるご支援をいただきまして、横浜マリノールカップ大会は38回を迎え、本年度も開催できる運びとなりました。心より感謝申し上げます。

まずは選手の皆さん、それぞれのチームで修練されたチームワークと技を、この大会で思う存分発揮してください。そしてこの横浜の地に集った仲間と、バスケットボールを通して交流の輪を広げていただければ幸いです。

各県のミニバスケットボール連盟の理事長をはじめ関係者の皆様、また今回ご参加いただく各チーム関係者の皆様、そして神奈川県ミニバスケットボール連盟の皆様、日頃よりお力添えをいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、熊本地震の大惨事から1年と3か月経ちました。そして、あの未曾有の痛ましい東日本大震災からは6年と4か月が経過しました。改めまして亡くなられた方に哀悼の誠を捧げますとともに、被災された皆様に一日も早く心安らかに暮らせる日が訪れますことを、心より願うばかりであります。

また復興・復旧はまだまだ十分とはいえません。新たに加速した支援をしていかなければならないと思います。私たちはこのような大災害を決して風化させてはなりません。一人ひとりがしっかりと心に留め置き、自分にできることを考えて行動しなければなりません。

ここで横浜マリノールカップ大会の誕生について紹介致します。

今から38年前、まだ県外同士の交流戦や関東エリアでの冠大会がなかった時代でした。関東地域で技術の交流や審判の交流ができないものかと模索したのがきっかけでした。

第1回の大会は、関東・東海地区の強豪チーム（ほとんどが関東大会、東海大会に出場チーム）の参加でした。プレ関東大会と言われた所以です。こういった中で行われたマリノールカップは、それぞれの県を代表するチームによる技術の発表の場でもあり、関東及び東海地域の技術交流に微力ではありましたが貢献できたのではと自負しております。

また、当時はミニバスケットボールのカテゴリーでは審判の公認制度がありませんでした。ですからミニで日本公認の方もいない状況でした。大会では、それぞれの県の派遣の方、チーム帯同の方、神奈川県公認、日本公認（ミニ以外のカテゴリー）の皆様のお力添えで、大会が運営されてきました。大会を重ねる毎に審判技術も向上していったと記憶しております。

結びとなりますが、ご案内の通り今回は開催会場が男子と女子で違っております。別紙を参照されまして、お間違いのないようご来浜ください。選手並びに関係の皆様にとりまして、思い出に残る大会となりますよう運営に心掛ける所存でございます。主旨をご理解いただきましてご指導ご支援をよろしくお願い致します。大会の成功を祈念しつつ敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。